

第27回

超高齢化社会を迎えるための
エクステリア対策

WEBマーケティングの
現場から読み解く
エクステリア業界



(株)クラッソーネ
「エクステリアの匠」事業部長
加納拓

超高齢化社会Ⅱ 自宅介護社会

世界各国と比べて日本の高齢化率は飛びぬけて高く、2015年の時点で人口の1/4以上が高齢者となりました。そして2025年には30%を超え、出生率が変わらないままでは2060年にはなんと約40%となる見通しです。

現在でも既に不足気味と言われている老人介護施設や介護士の数が、その頃には一体どうなってしまうのか多くの人が不安を感じています。経済的に余裕のある人や運良く終の棲家となる施設を見つけられる人は一握りとなり、今よりもっと自宅介護の必要に迫られる時代となるで

しょう。

このような「自宅介護を前提とした超高齢化社会」を迎えるにあたり、エクステリア業界として今まで以上に介護業界との連携が重要になると考えられます。

作業療法士が考える「介護エクステリア」とは

①室内で過ごしやすい&屋外に出やすいのが理想的な住宅

一般的に、介護を視野に入れた新築やリフォームにおいては、内装や屋内設備に気を取られがちです。パズルームや脱衣所を広くする、廊下

く引き戸を多用する、などが一般的かと思えます。これらももちろん重要です。

しかし、介護において、介護者が屋外に出る作業は最も大きな要素の1つとされ、この作業をスムーズに行うエクステリアの役割は非常に重要です。「屋外に出やすいエクステリア」の提案によって社交的な余生を送るか、引きこもりがちになってしまうか、大きな分岐点になってしまいうこともあるようです。

著者プロフィール

一級エクステリアプランナー。大手ハウスメーカーのトップセールス営業として8年間勤務し、二級建築士の資格を取得。2013年5月に株クラッソーネに入社し、同社が運営する優良エクステリア業者紹介サービス「エクステリアの匠」の事業部長に就任。現在はエクステリアWEBマーケティングのプロフェッショナルとして700社以上の提携業者サポートと、年間2000件のエンドユーザー対応を行っている。データや数字から導き出される的確な判断は、業界関係者から厚い信頼を寄せられている。

最近このように感じたことはありませんか？

介護場面を視野に入れたエクステリア提案が増えてきた

今後、さらに介護エクステリアのニーズが増えてきそう

介護エクステリアの提案力をもっとつけたい

介護・リハビリテーションのプロの視点からみたエクステリアって何だろう？

今回からは、「介護・リハビリテーションのプロから見たエクステリア」として、静岡県浜松市にある保健医療福祉の総合大学『聖隷クリストファー大学』の助教であり、作業療法について講義されている中島ともみ先生から伺ったお話をお送りしたいと思います。

【作業療法】とは、ホームヘルパーさんや介護士さんなどが介護作業を行うにあたり、最も重要な考え方の1つです。介護される側の「出来ること」「したいこと」などをひとつひとつじっくり聞き出し、その人らしい人生の実現のために精神的にも肉体的にもアドバイスをする介護のプロフェッショナルと言えます。

現在、「介護エクステリア」の考え方は広く普及しており、物件として手掛けたことのない販工店さんのほうが少ないと思います。しかし、ここでいまだ一度「介護・リハビリテーションのプロからの視点」をお伝えし、参考いただければと思います。今回は導入編として、作業療法の視点から見た介護とエクステリアについてお伝えしていきます。

聞き手 (株)クラッソーネ「エクステリアの匠」事業部長・加納 拓

②「介護される側」だけではなく「介護する側」の存在も忘れずに

介護エクステリアにおいて、「介護される側」のストレスを軽減することは最も重要と言えます。しかし、「介護する側」の存在も視野に入れることは必須です。「介護される側」はもちろん、「介護する側」であるご家族やデイケアサービスさん、介護士さんの動線や作業性を考えることが、双方にとってストレスがな

く介護作業を行えることに繋がります。介護エクステリアを計画するにあたり、これは当然のように加味されている内容かと思いますが、常に進化

化する介護業界における最新の動向を次号以降でお伝えしていきますので、参考に見てみてください。

③建築での常識が介護の視点ではそうでないことも
エクステリアの提案を行う際、「動線」から考えることは当然かと思

います。
建築の考え方で動線とは「外部から室内へ」となることが多いですが、

介護の考え方で動線とは「ベットの外部へ」となることが多く、建築とは真逆のベクトルです。

そして、その動線において最もハードルが高い動きの1つが「屋外に出る作業」です。このことから、介護のプロの目線では、エクステリアが重要なキーポイントであることがうかがえるかと思

います。
④エクステリアと作業療法に共通する考え方

健康な時とは状況が変わってしまっても、変わらず楽しく生きていきたいと願うのは誰もが同じです。自分のことはできるだけ自分でやりたい、人とのつながりを持っている、少しでも仕事をして社会の役に立ってほしい；思い描く生き方は人それぞれです。

介護をされる側もする側もできるだけストレスを感じることなく、思い描く生き方を実現して快適に暮らしていくために、エクステリアにできることは少なくありません。

ひとりひとりの希望や必要性に合わせて対応していく、そんな姿勢がエクステリアと作業療法の理念では

似ている部分です。

現在でも「介護エクステリア」の考え方は既に浸透しており、介護面を重視した案件を手掛けたことのある販店さんも多いでしょう。

ユーザーの個別の事情を理解し、介護される側・する側、両方の負担を軽減する「介護エクステリア」においては「作業療法」の基本的な考え方を理解することはとても重要です。

しかし、現在の日本の医療制度では、医師の指示なしで作業療法士に相談できる窓口がありませんので、今回のこの機会に専門家のお話をぜひ参考にしてみてください。

次回からは、作業療法から見たエクステリアの在り方などを中島ともみ先生より具体的にお話ししてもらいます。「介護・リハビリテーションのプロからの視点」をお伝えすることで改めて「介護エクステリア」について振り返る機会になれば幸いです。

作業療法



「出来ること」「したいこと」などを聞き出し、その人らしい生活を営むためのアドバイスをする。

介護エクステリアにおいては
作業療法の基本的な考え方を理解することが重要